三三

4.9.

従業員會を結成 一戰に出るか

京成電軌 形勢漸く急迫

かねて京成電軌従業員の一部に起つてゐた待遇改善問題はその後東交の指導も加はり數日前から電車電鐵、バスその他各部を統制した従業員會組織に調印する者が増加し八日夕刻の情勢ではこれをきつかけとして

一、従業員會の承認
二、賃銀三割値上(既報の物價騰貴手當五分の本俸加算を含む)
三、停年制の延長

を主とする嘆願書を押上本社に提出せんとする空氣が次第に濃く十十一兩日の中山競馬後期、花見時を控へて今明日の動きは少からず注視されて來た、なほ會社側では成鐵バス爭議と同樣に東交の觸手を排し且從業員會をも認めず事態惡化の對策を講じてゐる

北越製紙爭議 勞資とも硬化

安協點見つからず

北越製紙市川工場の爭議は目下縣特高課と市川署が調停中であるが双方とも一歩も讓らず、安協點は何等見つからず今のところ急速解決の見込みは全くなく調停者も困惑の體である

會社側は流石資本家だけに策戰本部を市川市某一流料亭に置き對策を練つてゐるが七日の馘首から何の處置もとらなかつた爭議團側は「いくら會社が強いと言つても全員馘首なんか出來るものか」とたかをくゝり會社をなめてゐる

また警察署の態度に憤慨し結束はます〳〵堅くなるばかりである

財團 協 調 會

3.21

合同運送の從業員 會社の仕事、拒絕

きのふ門前で小競合ひ

北越製紙爭議

市川市北越製紙會社の爭議の眞只中へ二十日朝會社へパルプ五車の入貨があり、その積み降しのため人夫が必要となつたが市川市合同運送從業員は總同盟に加入してゐる關係上、依賴を拒絕したのでやむなく東京深川から二十余名の仲仕を雇つたところ爭議團警備隊員に發見され會社門前で阻止、土田團長以下數十名がかけつけ一時は殺氣だつたが仲仕達が仕事を投げ出し歸京大事に至らなかつた

双方強硬 永びく模樣

爭議の中心問題は賃金値上げその他の待遇改善等よりも「總同盟市川第二支部」の組合公認の要求にあることが從來の爭議と異つた點で從業員側は飽まで組合として交涉せんとするに對して會社側は組合承認及び大衆黨として政治運動に乘出してゐる點は絕對に認めぬといふ強硬意見であり、又製紙聯合の生產統制を行つて居る今日一ケ月位の休業は痛痒を感ぜずとして居り急速解決は困難視されてゐる

籠城する爭議團

女工さん炊事 爭議團の日課

爭議團では總同盟本部派遣の大迫榮治氏指導の下に團長土田政夫氏統制委員長金子義巳氏以下役員及び長期籠城に備へる左の日程を決定、炊事は女工さんが毎朝六時から夜まで受持つ

△午前六時起床、人員點呼、ラヂオ體操△七時總同盟歌合唱激勵演說△九時部長會議△正午中食△午後一時經過報告△六時夕食△七時各支部應援演說△十時部長會議[illegible]

4.6 朝

勞資とも強硬

北越製紙の爭議

市川市北越製紙工場爭議は持久戰十七日双方とも強硬で讓らず會社側からさきに爭議團側に通告した復職申出締切も七日に迫り空氣險惡となつたので縣高特課並に市川署では憂慮し四日調停に立ち先づ同日午後から深更まで、五日は午後から會社側中村工場長、爭議團側土田團長、金子統制委員長に出頭を求め齋藤署長、小澤警部、小杉調停官補から妥協を勸告したが會社側は

六月まで現在のまゝとしその期間内に考慮しよう但し今日の結果に至つた事については爭議團側で責任をとる事

を主張、これに對し爭議團側は全面的に反駁し「要求の全部承認」を飽迄も主張してゐる、又總同盟縣聯合會では

會社側に反省の意志なければ爭議を縣聯の手に移し徹底的に戰ふ

といきまいてゐるので早急解決は困難と見られてゐる

周 會